

表1 明和池遺跡における既往の調査一覧

図内番号	調査原因	所在地	調査機関(大文セ調査名)	調査期間	主な成果	備考	文献
1	マンション建設	千里丘東5丁目	摂津市教育委員会 大阪府教育委員会	1987	弥生時代から戦国時代にいたる7時期確認、石製丸軋出土		広報せつつ
2	JR梅田貨物駅の機能の移転	摂津市7丁目	財団法人大阪府文化財調査研究センター	1998.10~12		61箇所のトレンチ調査のうち2箇所が摂津市域(No.60・61)	大文セ1999
3	吹田操車場跡地地区(仮称)の整備事業(操車場跡地内のまちづくり用地にかかわる調査)	千里丘7丁目地先	摂津市教育委員会	2007.12~2008.6	弥生土器、古式土師器、土馬ほか出土	計33箇所のトレンチ調査	摂津市2009
4	吹田信号場駅基盤整備工事(吹田操車場遺跡(09-2))	千里丘7丁目	財団法人大阪府文化財センター	2009.7~2010.3	大量の汽車土瓶、石炭	マルタイ検修庫部分	大文セ2011
5	吹田操車場跡地土地区画整理事業(明和池遺跡(10-1))	千里丘7丁目	財団法人大阪府文化財センター	2010.6~2011.3			大文セ2014
6	吹田操車場跡地土地区画整理事業(明和池遺跡(11-1))	千里丘7丁目	公益財団法人大阪府文化財センター	2011.4~2012.3			大文セ2014
7	吹田信号場駅基盤整備工事(貨物専用道路)(明和池遺跡(11-2))	千里丘7丁目	公益財団法人大阪府文化財センター	2011.4~6	15~16世紀の井戸(定義?法師の線刻あり)、8世紀中~後期の木枠井戸、弥生時代後期~庄内式期流路、弥生時代前期土器少量出土	汚染土除去に伴う調査(4箇所のトレンチ)	大文セ2012b
8	防災公園街区整備事業(明和池遺跡(11-3))	千里丘7丁目	公益財団法人大阪府文化財センター	2012.1~2	9~10世紀初頭の総柱掘立柱建物、弥生時代終末の竪穴建物、古墳時代中期の遺構・遺物あり		大文セ2012a
9	吹田操車場跡地土地区画整理事業(明和池遺跡(12-1))	千里丘7丁目	公益財団法人大阪府文化財センター	2012.4~2013.3	弥生時代~中世の山田川の前身の流路と各時期の建物(集落検出)		大文セ2014
10	防災公園街区整備事業(明和池遺跡(12-2))	千里丘7丁目	公益財団法人大阪府文化財センター	2012.8~9	8世紀代の井戸、5世紀後半の土坑		大文セ2012a
11	国立循環器病研究センター建設事業(明和池遺跡(15-1))	千里丘新町	公益財団法人大阪府文化財センター	2015.4~9	嶋下郡南部条里、坪境などの条里地割遺構		大文セ2016
12	中高層住宅建設事業(明和池遺跡(15-2))	千里丘新町	摂津市教育委員会 公益財団法人大阪府文化財センター	2015.11~2016.6	弥生時代後期後半の集落青銅器製造関連遺物の出土条里地割遺構		大文セ2017
13	中高層住宅建設事業(明和池遺跡(17-1))	千里丘新町	摂津市教育委員会 公益財団法人大阪府文化財センター	2017.11~2018.8	弥生時代後期後半から古墳時代初めの集落古墳時代の流路		大文セ2018

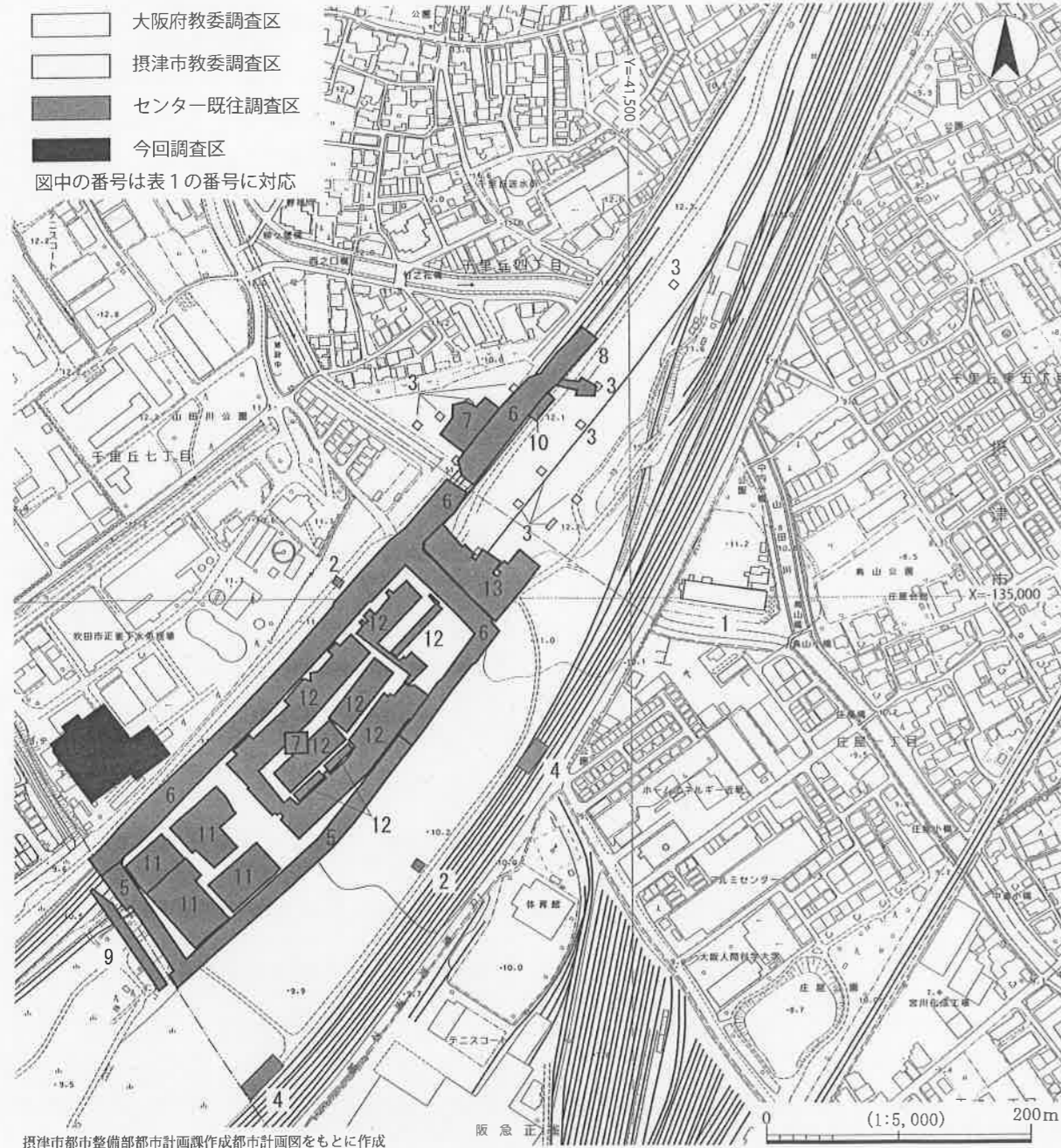


図5 今回の調査地と既往の調査地

窯跡、目俵遺跡からは縄文時代晩期後半にあたる船橋式・長原式の土器が出土している。他に縄文時代の遺物としては、摂津市鳥飼西の淀川河床から後期末から晩期初頭の滋賀里Ⅰ・Ⅱ式の土器が出土している。明和池遺跡の既往の調査では、縄文時代後期初頭~晩期の土器が流路から、後世の包含層からではあるが、後期初頭(中津式)・晩期末(長原式)の土器がわずかながら出土している。

(3) 弥生時代

摂津市域における最古の弥生時代の遺物は、摂津市鳥飼西淀川河床や、吹田市南吹田5丁目の神崎川沿いの五反島遺跡で出土している弥生時代前期の土器があげられる。また、吹田市域の西側に位置する垂水遺跡でも弥生時代前期の土器が出土している。ほかには、昭和12(1937)年に鳥飼西700番地

の水田で出土したと伝えられる、弥生前期の壺が新在家1丁目の光蓮寺に保存されている。このことから、摂津市域の淀川流域に弥生時代前期の集落が営まれていた可能性が推定される。明和池遺跡の北東には、銅鐸や青銅製品の製作拠点として知られる東奈良遺跡(茨木市)がある。後述するように、明和池遺跡では弥生時代後期の銅鐸片と青銅器製造関連遺物が出土している。明和池遺跡の製銅関連遺物(弥生時代後期)は、この直前に衰退した東奈良遺跡との関連を考える必要がある。弥生時代後期の他の周辺遺跡としては中ノ坪遺跡・目俵遺跡等で遺物の出土がみられる。しかし集落の様相が確認でき、実態がある程度把握できる点では明和池遺跡ほど顕著ではない。

(4) 古墳時代

摂津市域では古墳そのものは確認されていないが、蜂前寺跡や東正雀遺跡等で当時期の遺構、遺物が検出されており、古墳時代になると遺構、遺物が質、量ともに増加する傾向が窺える。千里丘東1丁目地域から須恵器片、千里丘3丁目の金剛院境内から埴輪片・須恵器片等が採集されており、鳥飼西地区の淀川河床からは古墳時代の前期の土器が大量に出土している。明和池遺跡自体では、古墳時代前期の遺構と後期の遺構が検出されている。なかでも後期(6~7世紀)の流路からは大量の須恵器が出土している。これらの中に焼成不良や融着した資料が一定量みられることから、同時期の千里古窯跡群で焼かれた製品を集荷・分別する集落が存在したと考えられている。